

『上杉鷹山の藩政改革とファイナンス』研究シリーズ2

米沢藩の財政窮乏化の過程 ～手伝い普請と凶作の実態と影響

2019年9月

加藤 国雄©

<内容>

1. 米沢藩の借金と藩士借上げの推移
2. 全国諸藩の財政窮乏化の理由
3. 米沢藩の財政窮乏化の原因
4. 米沢藩の手伝い普請推移(江戸時代)
5. 1601年頃の米沢藩の囲い金
6. 米沢藩の凶作推移(江戸時代)
7. 鷹山藩政改革期における手伝い普請と凶作

米沢藩の財政窮乏化の過程～手伝い普請と凶作の影響

(目的)

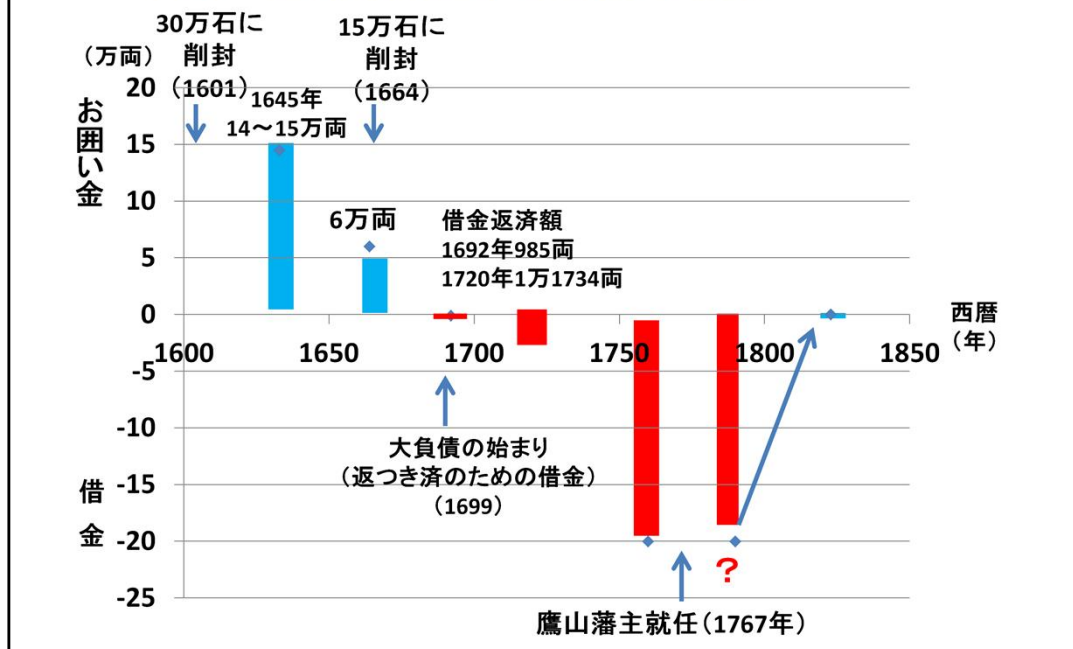
構造的に赤字体質だった米沢藩の財政窮乏化の過程を借金と藩士借上げの推移から見たうえで、手伝い普請(軍役含む)と凶作の実態と影響を探る。

(要約)

- ・米沢藩には1601年頃には囲い金(貯蔵金)40万両程度以上はあったと推察されるが、財政赤字で1700年頃に底をつき、借金が積みあがった。1760年頃には借金が20万両超あったとされる。藩士借上げは、1701年に始まり、1721年から俸禄1/4借上げが恒常化(実質減給)し、1750年より1/2へ増額、1822年から1/4へ減額するが幕末まで続いた。
- ・手伝い普請は、江戸時代をとおして、1600年代21件、1700年代7件、1800年代4件記録されている。江戸幕府創設期の1600年代前半に集中しているが、1600年代後半は皆無である。
- ・史料によると、凶作を損耗高2万石程度以上、大凶作を同10万石以上の場合としたようだ。凶作は、江戸時代をとおして、45件(うち大凶作8件)が記録されている。平均的には5.6年に1度だが、凶作は起きる時は集中しがちであった。1750年代の「宝五(宝暦5年)の大飢饉」は、5万両を超える手伝い普請と重なり、米沢藩の財政はどん底に至った。
- ・鷹山改革第3期は、スタート期に凶作がなく、第1期、第2期に比べ幸いなスタートだった。改革成功の隠れた要因と言えよう。

米沢藩の借金と藩士借入れの推移

1) 囲い金(貯蔵金)と借金の推移



1. 米沢藩の借金と藩士借上げの推移

米沢藩は、江戸時代初めから恒常的に財政赤字であった。その赤字の主要な資金繰り手段は、次の2つである。

- ① 囲い金(貯蔵金)の取崩し、その後の借金(大名貸し)、
- ② 藩士からの借上げ(恒常化することで実質減給)

以下この2点の推移から、江戸時代をとおしての米沢藩の財政窮乏化の過程を示す。

1) 囲い金と借金の推移

江戸時代をとおして、判明している囲い金と借金をプロットしたのが本スライドである。米沢藩には、1600年代には囲い金(貯蔵金)があった。1645年には14~15万両、15万石に削封された1664年には6万両と減少している。後に示すが30万石に削封された1601年頃は囲い金は40万両程度以上あったと推定され、財政赤字によりそれを取崩し、1700年頃には底をついたようだ。

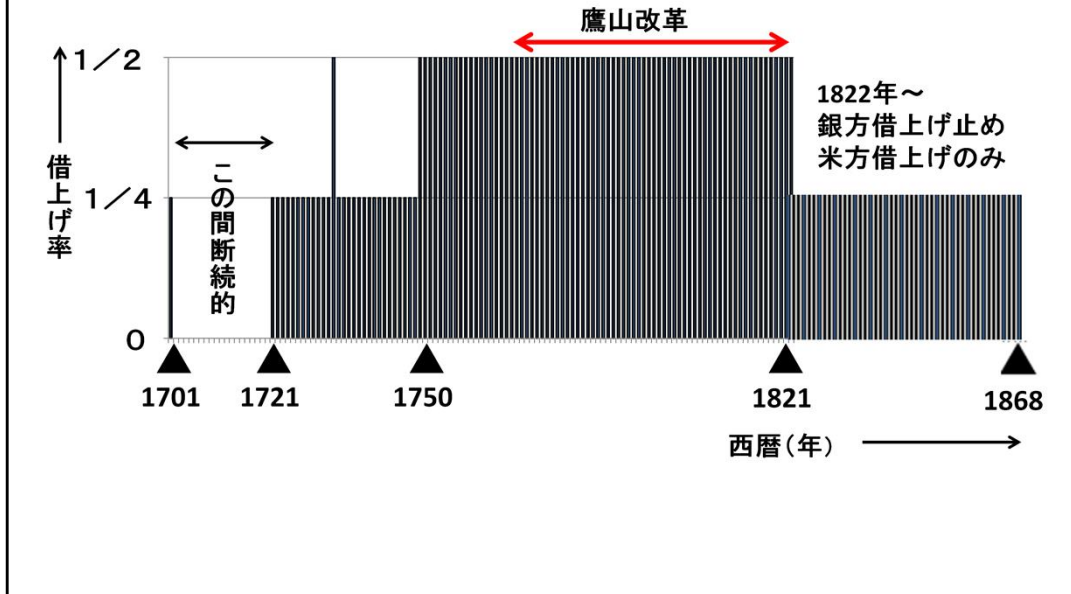
1699年が「大負債の始まり」とされ、借金返済のために借金をする事態となった。

その後急速に借金が増え、1720年には借金返済額が1万1734両、鷹山が米沢藩の養子になった頃、1760年頃にはでは借金20万両超となった。その頃、幕府への領土返上寸前までに至った。

鷹山改革で、金主に対する借金返済負担軽減要請などもあり減少したが、確実に借金が減少傾向となるのは改革第3期で、ほぼゼロ近くになるのが鷹山が死去する1822年頃である。

米沢藩の借金と藩士借上げの推移

2) 藩士借上げ(実質減給)の推移



2) 藩士借上げ(実質減給)の推移

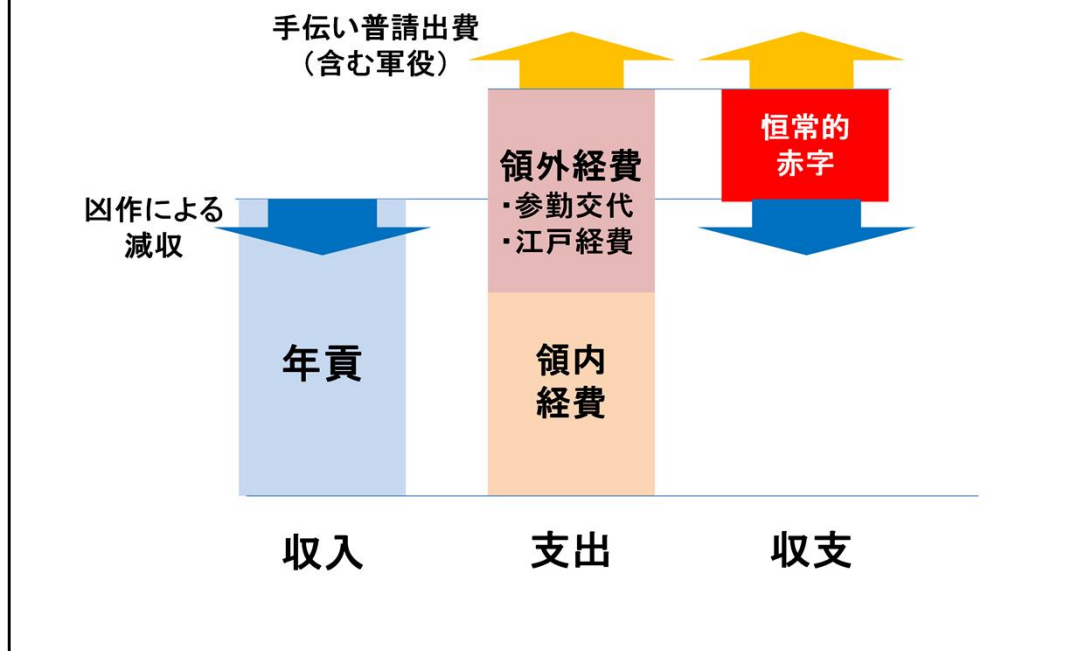
困い金が底をつく、大名貸しによる借金とともに、藩士からの借上げが重要な資金繰り手段となる。1701年から始まるが、スライドにそれ以降の藩士借上げの推移を示す。

1701～20年に、藩士俸禄の1/4借上げが断続的に行われた。一部返済されたが、大部分は返済されず実質上の減給であった。1721年からは1/4借上げが恒常化(1/2を1度含む)し、1750年からは1/2借上げが続く。

1/2借上げは鷹山改革末の1721年(鷹山死去の前年)まで続いた。借金返済のめどがついた1722年、当時の11代藩主斉定は借上げ廃止を望んだが、家臣の説得で1/4借上げとし幕末まで続いた。

借上げが恒常化した1721年以降幕末までの148年間で、1/4借上げが73年、1/2借上げが75年間となる。平均すると、1年当り借上げ率は37.7%となる。1年当りの家臣俸禄を3.6万石とすると(研究1参照)、1年平均1.36万石の借上げ、148年間累積では201万石に及ぶ。1石=1両とすれば、201万両となる。現代価値で2,010億円である。家臣はこれだけの俸禄を逸失したことになる

全国諸藩の財政窮乏化の理由



2. 全国諸藩の財政窮乏化の理由

米沢藩が財政窮乏化するのには藩財政が恒常的に赤字だったからだが、他の全国諸藩もそうだった。それは、スライドに示すように、幕府が各藩の蓄財を許さず、収入を上回る出費を課したからである。

つまり、江戸に藩邸を与えそこに藩主の妻子を置かせ、1年ごとに藩主が領地と江戸を往復する参勤交代制(往復の旅団規模などが表石高で決められた)を敷き、江戸での幕府との付き合いで多大な出費が伴う仕組みを強いたからである。1692年の米沢藩の財務データによると、領外経費は2万両超と推定され、領内経費1.6万両を上まわっていた。

さらに幕府は、後にみるように幕府成立初期に多かったが、各藩に手伝い普請や軍役を課し、赤字が拡大し各藩の財力を弱めることとなった。

収入面では、何年かおきに起こる凶作の影響が大きく、年貢収入減少が財政赤字を拡大した。

このように、大きな領外経費が財政赤字の構造的な原因で、突発的な手伝い普請(含む軍役)や凶作が財政赤字を増大した。本研究は、手伝い普請と凶作がどのような頻度で起き、どの程度財政に影響を与えたかを分析することを目的とする。

なお、参勤交代制度は各藩が一律に従ったわけではなく完全に制度化されるのは、1635年の「寛永の武家諸法度」によってである。上杉家は外様大名として忠誠を求められたのだろう、幕府よりいち早く1603年に江戸に邸地を与えられたから、早めに参勤交代制を受入れたと思われる。

米沢藩の財政窮乏化の3局面

		①1600年～ 30万石時代	②1664年～ 15万石時代 (困い金減)	③1700年～ 15万石時代 (借金増)
収入	実高			
	凶作	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓
費用	領内経費		半減までに至らず	
	江戸経費		半減までに至らず	
	手伝い普請	↑↑↑↑↑	↑ ↑	↑ ↑ ↑
	支払金利	なし	なし	累増
収支		赤字	赤字度合い高まる	赤字(累増)
赤字 対策	資金繰り	困い金取り崩し	困い金取り崩し	借金増加
	俸禄	1/3	1/2	借上げ(実質減給)

3. 米沢藩の財政窮乏化の3局面

米沢藩が大きな借金を抱えるに至った過程をスライドに示す。基本的理由は先にみた、全国諸藩と共通するが、次が米沢藩の特殊事情である。

- ・1664年に15万石と1/2に削封されたこと、その際家臣数をほぼ維持したこと(礫は1/2としたが)が窮乏化を加速したこと
- ・困い金(貯蔵金)が多くあったことが救いだったが、そのことと上杉家の大家意識が財政窮乏の危機意識を鈍らせたこと

次の3つの時期・局面に分けて考えることができる。

①30万石時代(1601年～)

実高増に努めたが、江戸経費や頻発する手伝い普請で財政収支は赤字で、困い金を取崩す。

②15万石時代(困い金減)(1664年～)

15万石に削封され、かつ家臣は減らさなかったことで、赤字度合いは高まったはずである。この時期、江戸経費は米沢領内経費より多かった。困い金が底をつく。

③15万石時代(借金増)(1700年～)

借金が累積してゆく。家臣に対する俸禄の借上げが恒常化し実質的な減給を強いる。

以下では、藩財政悪化に拍車をかけた幕府の手伝い普請と凶作の影響を観察する。

米沢藩の手伝い普請・軍役推移(江戸時代)①

<1600年代>

西暦年	内容	負担
1603	江戸市中普請手伝 江戸城普請手伝	
1604	江戸城普請手伝	
1606	江戸城石垣普請手伝 江戸城桜田門石垣改修 禁裏御造営御手伝	
1607	江戸城天守、堀浚、石垣修築	
1609	下総銚子船入普請夫役	1,000人使役
1612	仙洞御所修築手伝	46貫余
1614	越後高田城普請 大坂冬の陣に参戦	人夫数千人 9,000人うち騎馬350
1615	大坂夏の陣に参戦	9,000人うち騎馬350
1620	江戸城石垣普請(桜田から和田堀まで)	人夫数千人
1622	最上氏改易のため城請取	
1629	江戸城普請	
1636	江戸四ツ谷通堀浚	
1639	江戸城曲輪修築(桜田門から清水橋まで)	
1643	江戸城二之丸普請 加藤明成改易につき若松城請取	
1649	江戸城外堀石垣普請	人夫、26,000両
1650	江戸城外堀石垣普請(一橋御門より神田橋まで)	

4. 米沢藩の手伝い普請推移(江戸時代)

(注)手伝い普請とは、諸大名の負担で行われた幕府の命ずる大規模工事を指すが、広義には幕府の命ずる軍役も含める。

米沢藩に課された幕府よりの手伝い普請・軍役を江戸時代をとおして観察する。

1)1600年代

本スライドは、徳川幕府開闢1603年よりの1600年代のものを示す。1650年までに集中しているており、1600年代後半は記録では見当たらない。

1614～15年には大坂冬・夏の陣への参戦や1628年の最上氏改易に伴う城請取など軍役も入っている。

この時期は、手伝い普請費用の記録は少ないが、1643年江戸城外堀石垣普請には2万6千両を要している。

米沢藩の手伝い普請・軍役推移(江戸時代)②

<1700、1800年代>

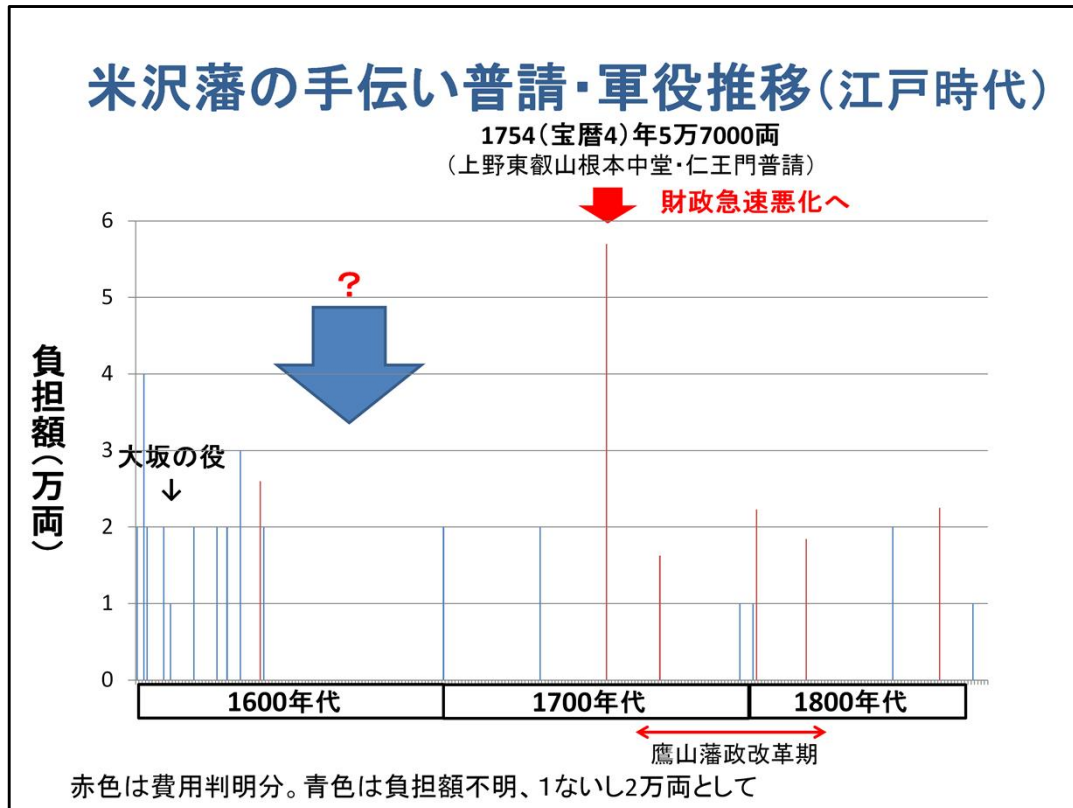
西暦年	内容	負担
1704	江戸城石垣普請	
1733	江戸城堀浚普請	26,418両
1753	上野東叡山根本中堂修復並びに仁王門再建	57,000両
1769	江戸城西之丸普請手伝	16,250両
1793	蝦夷地騒動・武器準備	
1797	岩船郡沿海の防備	
1798	江州山門諸堂社修理	
1813	江戸城紅葉山御霊屋修理	18,445両
1839	江戸城西之丸普請手伝	
1853	江戸城西之丸(前年焼失)普請手伝	22,500両(5か年賦)
1863	英軍艦来航、京警護	

(出所) 特別展「上杉鷹山の財政改革」資料(米沢市史近世編1、米沢市史大年表)、渡邊「藩政成立史」、横山「置賜文化」論文などより

2) 1700、1800年代

本スライドは、1700～1800年代の手伝い普請・軍役推移である。

1600年代後半途絶えていた手伝い普請は、借金増えだす1704年に復活している。1753年の上野東叡山根本中堂修復並びに仁王門再建はとりわけ高額で5万7千両を要したが、米沢藩のネット税収(家臣への俸禄支払い後収入)のほぼ2年分に匹敵するもので、直後の「宝5の大飢饉」と重なり、米沢藩の財政破綻を決定的なものにした。

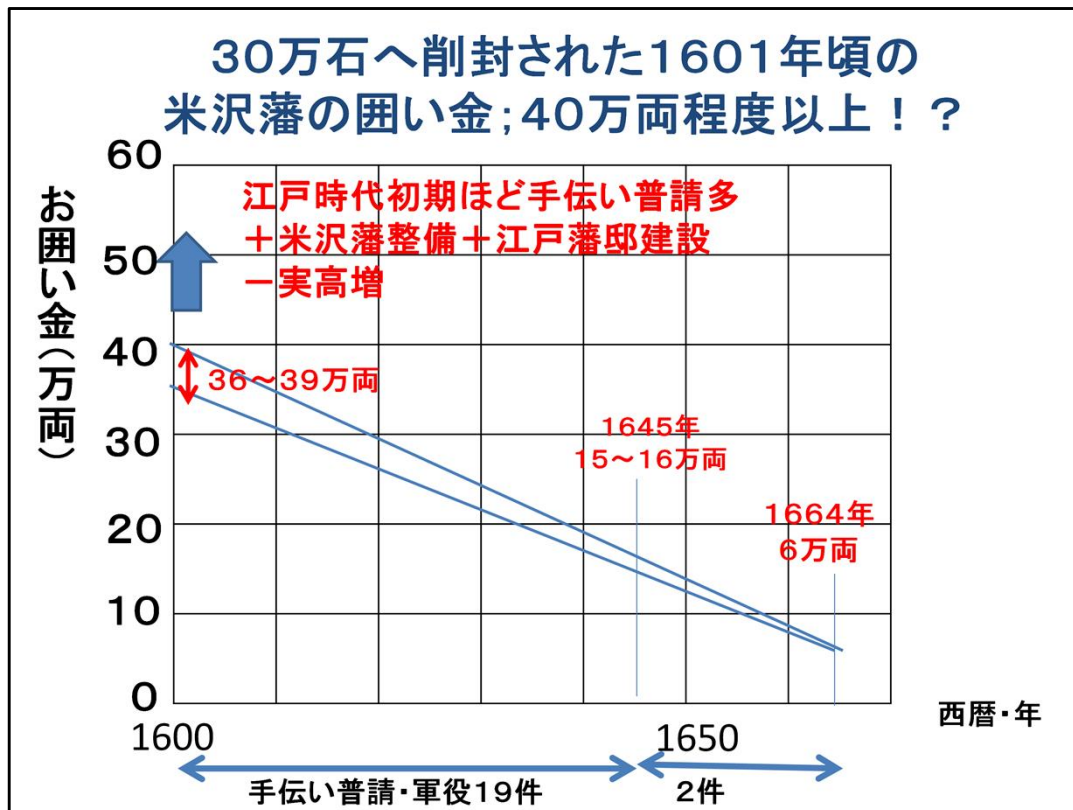


3)江戸時代をとおしての手伝い普請推移を図示(見える化)すると

手伝い普請ないし軍役の負担額は、江戸時代初期ほど不明であるが、その負担額を多くを2万両一部を1万両と仮定して、時期別頻度を図示したのがスライドである。

先に示したように、江戸時代初期1600年代前半に集中し、1600年代後半は見当たらない。江戸城ないし江戸の整備がすすんだせいだろうが、皆無ということは不思議である。他の藩もそうならうなづけるが、研究中の現時点では証明できない。もし米沢藩特有なら、政治的配慮があったのだろうか？1664年削封の際に藩取り潰しを回避してくれた保科正之の影響があったのだろうか？または、削封時に嫡子を米沢藩の後継藩主に出した吉良家(高家)の影響だったのだろうか？

1700年以降は、10～20年に1度程度だった。



5. 1601年頃の米沢藩の囲い金

米沢藩の囲い金(貯蔵金)は、前に示したように、1645年に15~16万両、1664年に6万両あった。この19年間で囲い金は9~10万両減少した。藩財政が赤字の上、手伝い普請出費などで囲い金を取崩していたことになる。それ以前も、手伝い普請や軍役が1600年代前半に集中したわけだから、囲い金取り崩しは続いていたはずである。では、30万石に削封された1601年頃の囲い金はどれだけあったのだろうか？

図に示すように、囲い金が1645年15~16万両から1664年6万両へと減少した割合が過去も同様とすると、1601年の囲い金は36~39万両となる。

1601年の囲い金はそれより多かったと思われる。先のデータによると、1645年から1664年の19年間で手伝い普請・軍役は2件(年平均0.11件)に対し、1601年から1644年までの43年間では19件(年平均0.43件)と、1644年以前の手伝い普請・軍役負担が大きかったからである。さらに、削封により移封された米沢の城下町開発や新田開発に多くの費用を要しただろう。また、江戸幕府が発足した1603年には江戸邸地が与えられ、その江戸藩邸建設の出費も大きかったろう。新田開発による実高増で税収は増えたが、上記の出費は囲い金取り崩しを加速したと思われ、1601年の米沢藩の囲い金は40万両程度より多い額と推測される。

米沢藩の凶作推移(江戸時代);データ

<1600年代>

<1700年代>

<1800年代>

西暦年	凶作原因	損耗高(石)
1611	凶作	
1615	水害	
1619	凶作	
1641	大凶作	
1642	凶作	
1644	旱害	
1649	凶作	
1655	旱害	
1656	旱害	
1659	水害	
1667	凶作	
1668	冷害大凶作	
1674	水害	
1675	凶作	
1680	凶作	
1695	冷害大凶作	

西暦年	凶作原因	損耗高(石)
1701	長雨不熟	
1712	長雨不熟	
1719	水害、虫害	
1720	水害、虫害	27,651
1732	旱害、虫害	41,130
1740	旱害	
1749	旱害	47,275
1752	大雨	28,948
1754	水害	
1755	大雨、洪水	113,600
1756	長雨	53,500
1757	洪水	82,371
1760	大雨、気候不順	18,380
1765	旱害	25,250
1770	旱魃、濁水	53,604
1771	旱害	63,503
1773	旱害	82,353
1783	冷害、大凶作	109,000
1785	旱害	
1786	冷害	70,000

西暦年	凶作原因	損耗高(石)
1801	旱害	
1813	凶作(原因不明)	
1818	旱害	
1830	冷害虫害	40,800
1833	冷害大凶作	126,000
1835	冷害大凶作	115,700
1836	冷害大凶作	116,900
1838	凶作(原因不明)	95,000
1853	旱害	56,000

平均損耗高(判明分)

	回数	平均損耗高(石)
大凶作	5	116,240
並凶作	15	52,384
全体	20	68,348

(出所)①渡邊「藩制成立史」、②「米沢市史(昭和19年)」
1818年までは①、それ以降は②をベースに他で補完

6. 米沢藩の凶作推移(江戸時代)

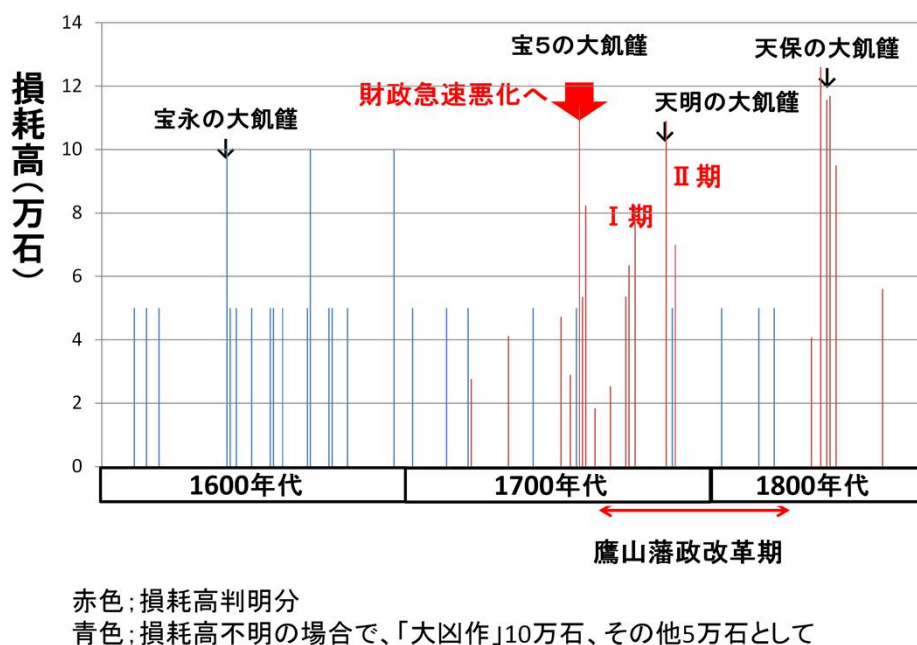
1) 米沢藩の凶作推移データ

米沢藩の江戸時代をとおして判明している凶作記録(発生年、原因、損耗石高・判明分)一覧を示す。

1600年代16件(うち大凶作3件)、1700年代20件(2件)、1800年代9件(3件)の記録がある。おおよそ250年間に45件、5.6年に1回の割合で起こっていた。凶作とは損耗高2万石程度以上、大凶作とは損耗高10万石を超える凶作を指しているようだ。

1720年以降の凶作は、損耗高が記載されているケースが多い。右下表より、大凶作の平均損耗高は11.6万石、それ以外の並凶作は5.2万石、全体では6.8万石である。実高を25万石とすると、1回の凶作で27%の減収(大凶作の場合は46%)となる。それが5.6年に1度発生したことになる。

米沢藩の凶作推移(江戸時代)イメージ



2)江戸時代をとおしての凶作推移を図示(見える化)すると

前表をもとに横軸を西暦・年、縦軸を損耗高として図示する。損耗高が判明してる場合は赤、不明の場合は大凶作を10万石、並凶作を5万石と仮定して示した。

平均的には5.6年に1度だが、凶作は起きる時には集中しがちなことが分かる。4つの大飢饉が示されている。1750年代の「宝五(宝暦5年)の大飢饉」は、先に述べたように5万両を超える手伝い普請と重なり、米沢藩の財政はどん底に至った。藩人口もほぼ最低を記録した。

鷹山の藩政改革期においては、1期、2期ともに初期の頃に凶作が起こったことが分かる。

鷹山藩政改革期の手伝い普請と凶作

西暦・年	鷹山改革	手伝い普請・軍役		凶作(原因不明)		
		内容	負担額	内容	損耗高(石)	
1769	第1期 1767年～	江戸城西之丸普請手伝	16,250両			
1770				旱魃、渴水	53,604	
1771				旱害	63,503	
1773				旱害	82,353	
1783	第2期 1782年～			冷害、大凶作	109,000	
1785				旱害		
1786				冷害	70,000	
1793	第3期 1791年～	蝦夷地騒動・武器準備				
1797		岩船郡沿海の防備				
1798		江州山門諸堂社修理				
1801				旱害		
1813		江戸城紅葉山御霊屋修理	18,445両		凶作(原因不明)	
1818					旱害	

6. 鷹山藩政改革期の手伝い普請と凶作

上杉鷹山の藩政改革期における手伝い普請と凶作の発生を一覧する。

1) 改革第1期(1767年～)

鷹山が藩主に就任した2年後に1.6万両の手伝い普請が課され、さらにその翌年からは凶作が続いた。鷹山は就任時に手伝い普請や凶作が起こることでの財政悪化を危惧していたが、現実のものとなった。

2) 改革第2期(1782年～)

この期は手伝い普請はなかったが、1783年に先代藩主・重宗の隠殿(南山館)が焼失し再建に2万両を要している。同年、「天明の大飢饉」が襲い凶作が続き、財政は再破綻に至った。

3) 改革第3期(1791年～)

この期のスタート時は、1793年に「蝦夷地騒動・武器準備」の役務(金額不明)が記録されているが、凶作もなく、第1期、第2期に比べ幸いなスタートだったと言えよう。第3期改革成功の隠れた要因と言えよう。

<完>

主な参考文献

- ・横山昭男『上杉鷹山』(吉川弘文館)1968年
- ・小野榮『米沢藩』(現代書館)2006年
- ・藩政史研究会『藩制成立史の総合研究 米沢藩』(吉川弘文館)1963年
- ・渡邊與五郎『近世日本経済史 上杉鷹山と米沢藩政史』(文化書房博文館)1973年
- ・『米沢市史』(米沢市役所)1944年
- ・『米沢市史 近世編1』(米沢市)1991年
- ・『米沢市史 近世編2』(米沢市)1993年